



四万十川上流淡水漁業協同組合
組合員／山脇 陳男さん

1/100でも他の環境に想いをはせれば

荒れた山は、濁った水を一気に川に流します。昔と比べ、川の水生生物が減りました。彼らのエサや隠れ家となる、クヌギやナラなどの落葉樹の落ち葉が減っているからです。落葉樹の葉は、山の腐葉土となり保水力を高めます。

川で漁をするには、川よりも山が大事。自然へのわずかな配慮と思いやりがあれば、山と川の関係も良い方向に向かいます。



四万十清流消防署
隊長／野坂 洋一さん

主要道路の寸断は救急活動の危機

山の荒廃は、土砂災害の危険性を高めます。もし人家近くで発生すれば、大惨事になりかねません。また、主要道路が土砂で寸断されると、救急車などの緊急車両が迂回を余儀なくされます。現場到着が遅れることで、結果として救える命を失う事態も起こりえます。

山を健全に管理する林業従事者には、心から感謝しています。

見落とされがちな

山の

多

面的

機能



四万十町森林組合
企画・営業部長／武政 純也さん

山を未来へ、人の手で循環させる使命！

昔の人が育てた人工林は、人が手入れを続けないと荒廃し、回復は難しくなります。木材価格の低迷や管理面の不安もあり、山を手放したいという方もいますが、今は山の整備に対する手厚い補助制度もあります。

整備した山は光の入りが全く違います。伐採と植林を繰り返し、未来へ山を循環させていくことが私たちの使命です。



北ノ川小学校
校長／藤原 良仁さん

地域の自然をすべて生かす学び

普段、山に入らない子どもたちにとって、間伐や植樹の体験は大きな力になります。最初は戸惑いますが、「邪魔な木を切っていい」理由が分かると、積極的に作業し始めます。

海の恵みも山があるから。すべての自然がつながっていることに気付きます。見て、触れて、感じる体験こそ、これからの時代を生き抜く「生きる力」となり、郷土愛を育むきっかけとなります。

山が育む命、未来へつなぐ恵み

日々の暮らしに迫られ、将来への不安も尽きない現代。だからこそ、新年の初めに少し山に目を向けてみませんか。山が育む命や恵みは、私たちや子どもたちの未来を支えています。

この特集が、数十年後の未来を想像し、山に関心を持つ確かなきっかけとなることを願います。

お問い合わせ先／農林水産課 22-3113

森

林

山の恵みが

ぬくもり に変わる

時代に沿った製品を

最新機械で

高品質な製材品へ

令和3年度、森林環境譲与税を活用し協同組合高幡木材センター「しまんと製材工場」(東大奈路)が完成。最新の機械整備により、生産性を大幅に高めました。

守り人たちが搬出した丸太は、シャーンという製材音と共に正確に製材されます。工場に漂う深い木の香り。四万十ヒノキのほんのり桃色の木肌は、最高の品質を示し、中部・関東地方へ、そして町内の私たちの元へ届けられます。

山の資源を有効利用し、消費者に届けるのが私たちの使命です。四万十ヒノキは、色味と強度で市場評価は高いですが、今は価格競争の時代。必ずしも高品質な材が高値で売れるわけではありません。木を見せない住宅が増えるなど、変化する時代やニーズに応える製材品を届けるため、販路拡大に尽力しています。

特にJAS認証製材品の需要が高い公共施設や商業施設などの非住宅分野に注目しています。県内で認証製材品を大量生産できるのは当社だけです。

また、一般住宅でも梁桁を米国松から強度に優れるヒノキへ転換する傾向もあり、それらもチャンスと捉え、激動の時代の中でこれからも質の高い製材品を消費者に届けます。



協同組合高幡木材センター
しまんと製材工場
代表理事／伊藤 訓新さん

木のぬくもりを暮らしに



暮らしの場にある町産材のぬくもりは、子どもたちの成長と共にあります。



四万十ヒノキで家を建てた
林 千紘さんご一家(北琴平町)

町産材が叶える安心とぬくもり

温かみが違いますし、木に囲まれていると、とても落ち着きます。完成から3年、床や天井の色が変わり、愛おしさが増しています。遊びに来た人も「木のいい香りがするね」と喜んでくれます。

町の補助制度も活用でき、とても助かりました。長男と同じ年の家。子どもの成長と共に、この家の味わいを楽しんでいきたいです。



四万十ヒノキの机で勉強する
米奥小学校 1・2年生の皆さん

木に包まれた学校生活の価値

- 1年生 佐竹 楓さん(後列左) 「ツルツルで気持ちいいし、木の机だと集中できる」
- 1年生 吉本 蓮さん(後列右) 「机もイスも木だけでできていてすごい!」
- 2年生 田村 知瑛さん(前列左) 「木のイスは、冬に座っても冷たくないよ」
- 2年生 竹内 心都さん(前列右) 「木の模様が全部違っておもしろい。6年生まで大切に使いたい」



町木育事業で新生児に木製玩具を
リトルエメラルド 川崎 剛史さん(奈路)

将来、木に興味を持つきっかけに!

ヒノキ、スギ、クリ、カシなどたくさんの町産材を使って製作しています。木は樹種で色や重さ、木目も違って個性があります。保護者も一緒に触れて楽しんでほしいですね。

大きくなってこのおもちゃを見たとき、木に触れて遊んでいたことを思い出し、木に興味を持つきっかけになってくれればうれしいです。